

## 日本ジオパーク「条件付き再認定」とは

市長 / 指摘事項は2年以内に改善



山本 芳文 議員

**議員** 昨年の後半、日本ジオパークから認定調査が「条件付き再認定」であったが指摘事項は何か。

**市長** 事務局体制の強化認定ガイドの組織化・地域に十分認識されていない。

**議員** 指摘事項に時間の制約はあるのか。

**市長** 2年後に再認定審査があるので、2年の期間で改善する。

**議員** 今年は世界ジオパークの調査があるが、日本ジオパーク審査結果との関係はあるのか。

**市長** 世界ジオパーク審



ジオサイト「原城跡」

査に影響があるか分からない。認定になるように一丸となって取り組む。

**議員** 「世界で認定を受け日本で認定取り消す」事が有り得るのか。

**企画振興部長** 可能性が無いとは言えない。

**市長** 審査員の1人は、「地域住民になじんでない」と言っている。

### 「原城」地域の市民に出前講座を

**議員** 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」

の構成遺産として「原城」がある。世界遺産をもつ住民・市民に盛り上がりが出ていくように感じられる。行政の目も、駐車場・トイレなどハード事業に向けている。世界遺産の客は当然、通りすがりの市民に「原城」の歴史を

史を尋ねるだろう。南有馬町の市民が一番に客と接する。各自治会公民館で簡単な「原城と世界遺産」の基礎講座を開くべきと考える。ジオでも「地域になじんでない」と審査結果がでている。

**市長** 市民に世界遺産の大事さ価値を知ってもらおう事は、私自身も思っているのを受けとめる。

**議員** 交流人口が増えると、民間の資金投入も行われる。市民が盛り上がり、お客が「おもてなし」と感じられる行動が自然に発生する。ガイドも原城とジオのコラボレーションができてくる。

小・中学校では地元歴史の授業はあるのか。

**教育長** 郷土学習として世界遺産学習をやっている。



原 城 跡

## 市民の要望をどのように捉え行政に反映させるのか

市長 / 身近なところからの対応が基本と考える



下田 利春 議員

### 市長の政治姿勢について

**議員** 自治会や地域からの要望は一事業費が小さいため対応が遅れている。昨年は倍額、今年度も6,000万円増額しているが今後の対応は。

**市長** 100%とはいかないが、市民の皆さんが本当に便利になる方向で進めたい強い気持ちである。

### 観光対策について

**議員** 南島原市の隠れた魅力発見の取り組みをし

て、新たな観光資源の発掘も必要では。

**市長** 面白い企画だと思う。担当部局と検討しながら進めてみたい。

### 農業振興について

**議員** 高齢により農業散布にも苦慮されている。

市やメーカー及び農協に協力を仰ぎ、ドローンで試験的に取り組みたいとの情報もあったが、市当局の考えは。

**農林水産部長** 農業積載能力が小さく難しい面があるが、調査等にも活用できればと思っている。

**議員** 農地対策について担当職員は、農地法に基づいて対応していると思うが、その結果いろんな弊害が生まれている。小さな問題まで検証したい。まず、優良農地の定義はどんなものか。

**農林水産部長** 一団のまとまった農地、農業水利施設の整備等を行った生産性が向上、その他、良好な生産性を備えた農地と規定。

**議員** 役所・駅・公共施設から300メートル内は優良農地でも転用できるが、農振地域は荒れ果てた農地でも転用できない。農振除外、または、転用できる要因は。

**農林水産部長** 農用地以外にすることが、必要かつ適当で農用地以外に代替地がない。農業上の総合的な利用に支障がない。土地改良事業等完了後8年が経過している等である。

**議員** 農振地域内の農地で、農道がなく農業機械が入れない農地を、農振地として維持する方法は。

**農林水産部長** 市の単独事業や、8割補助等を活用し農業機械が入るように土地改良等を実施してもらう。



原 城 跡